2007年（平成19）1月

カルメル

霊性センターニュース

ハンス・メムリンク 東方三賢王の礼拝

217号

「“緊急性”と“重要性”」

カルメル会　中川博道

「“緊急性”と“重要性”のうち皆さんはどちらを選びますか。」と、ある医療福祉関係の大学院のゼミで、教授が院生に質問をした時、10 人中ただひとりだけが“重要性”と答えたそうです。その時、教授は「“緊急性”に応え続けることで、皆さんはいい人になれるかもしれませんが、本当に物事を動かしていくことはできない」と言われたそうです。

この話を聞いて、立ち止まって、何かを思い巡らす必要を感じました。

気がつくと、自分の中には毎日毎日追い回されている何かがあって、ともするとそれに振り回され、日を重ねることで、時を上滑りするように生きてしまうことがありがちです。また、国家的な規模においても、“緊急性”ということで人々の目を覆って、重大なことを見えなくしてしまう過ちを経験してきました。

本来“緊急性”と“重要性”は二者択一的に並べるものではなく、むしろ、毎日の生活の中で、この二つは常に視野に入れておくべきものです。しかし、“緊急性”と思っているものに何処か振り回されて生きているように思われる時、私たちは、とにかく立ち止まって、“本当に重要なものが何であるのか”を問う必要はあります。

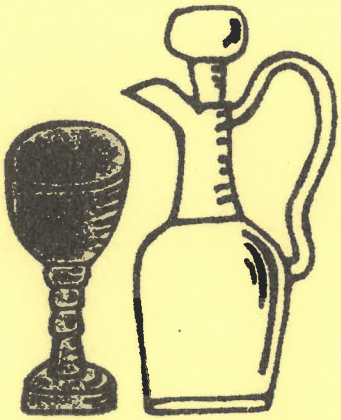
新しい年を迎えて、また慌しい日常が動き始めます。主であるお方は、人間がその人生において、何かに流されて生きることがないように、週の一日を、安息日として定め、私たちが日常性から離れて、いのちの源であるお方とともに日常性を見直すことのできる時と視点を持つことへと私たちを招いています。

> 神を愛する者たち、すなわち神の計画に従って召された者たちにとっては、
> 全てのことが共に働いて善へと至る、ということを私たちは知っている。
> 誰が私たちをキリストの愛から引き離すのか。　（ローマ 8 章 28、35）

「時の刻み」は、創造主の「愛の鼓動の刻み」です。今年与えられる一年が、本当の意味で創造的な時の刻みとなっていきますように、「主日：安息日」の意味をかみ締めつつ歩む年でありたいと思います。

皆様の上に新しい年の祝福と平和をお祈りいたします。

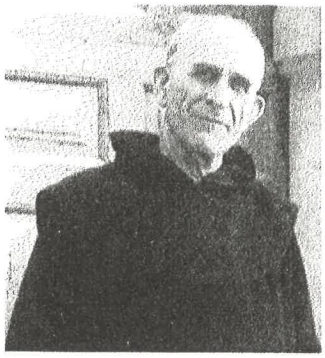
心　の　泉



心の泉

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父　ocd

――現代の十字架の聖ヨハネ――



生まれつきの素質が
　　何であろうと問題ではない

わたしたちにとっての富
　　それは聖霊にとらえられ
　この愛の霊によって変えられることである

――幼きイエスのマリー・エウジェンヌ　ocd

新しい年の始まりに当たってわたしたちはいろいろなプロジェクトを考えます。そんな時この一年だけでなく、人によりその長短はあっても一生を視野に入れ、この世の価値に基づいた計画だけでなく神へとまなざしを向けたプロジェクトにしたいものです。生産性、効率が優先されるこの世に生きるわたしたちはしかとまなざしを神に向け、マリー・エウジェンヌ神父のこのような言葉をたびたび心に刻む必要があるでしょう。

十四歳の少年アンリ（マリー・エウジェンヌ神父）はある日、石切り場で石を切っている人たちに出会いました。その時、彼にはそれがこの世で一番つらい仕事のように思えました。そこでそのつらい仕事に挑戦してみようと石を切る練習をしたということです。しかし、石を切る前に道具を壊してしまいました！　この体験からアンリは「あのように石を切ること、あるいは偉大な人物になることいずれにしても、それが一体何なのだろうか。所詮人間的レヴェルでの偉大さ、すばらしさ、困難への勝利なのだ・・・」と学びました。自分にとって、それはどっちでもよいことだとアンリはわかったのでした。

十四歳の少年アンリのこの洞察は後に次の確信となりました、「生まれつきの素質が何であろうと問題ではない。わたしたちにとっての富、それは聖霊にとらえられ、この愛の霊によって変えられることである」。

新しいこの一年、まことの富を得るよう努めたいものです。日々の生活の出来事を、その時その時神のみ手から受け、信頼をもって聖霊の働きに自己を明け渡してゆくなら、わたしたちは神のまなざしのもとに輝く最高の資質を内に育てているのです・・・たとえ、それがこの世のまなざしには失敗、悲しい出来事としか映らないとしても。

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

断想（２０９）　若き日のノートより

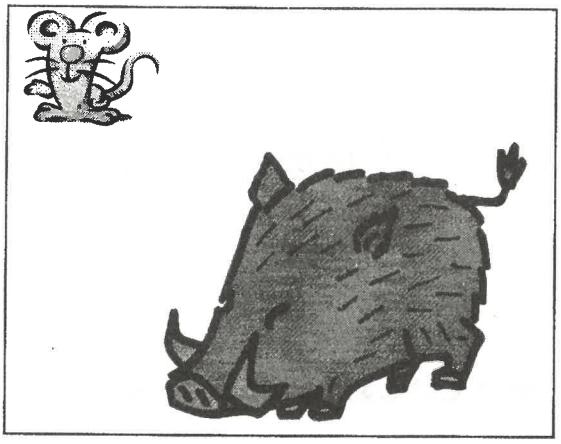
奥村一郎

虚無・・・　空洞・・・・
むなしさ、　はかなさ、　・・・・
何と言おうと　どうにもならない
言葉にすれば　いくらかでも　やわらげられるかと思い　ペンをとる
苦しみは　深まるばかり
しかし　それ以外に　どうしようというのだ
　あゝ　あの狂おしいほどの青年の
魂の空白が　よみがえってくる
　神も　イエズスも　仏も、何も　見えなくなってしまう
私自身も　人間も　この宇宙も
　あゝ
確かに　二十五年前のときと同じでは　あるまい
否それ以上に　この魂の空洞は　私を苦しめる
司祭であるが故に　修道者であるが故に
偽善者でありたくない
死んでも　自己を偽りたくはない
私がキリストに挑んだ　死闘は
正しく　自己に対する　誠実さからだった
私は死んでも　失いたくはない
　しかし　おゝ何と・・　矛盾にみちたことだろう
　私の環境も　生活も　今は　不気味なほどに　澄んでいる
しかし　魂の暗さは　増すばかりだ

書かなくては・・　書かなくては　いられない
だまれ、私の魂よ
お前には　何の言葉も　ないことを　私は知っている
断崖の　一本の草の根に　しがみついているかのように
お前が　言葉に　しがみついていることを

ねるがよい　眠るがよい
静かな夜が　お前の心と　体の痛みを
やわらげてくれるだろう

ヘンリ・ナーウェンの『旅路の糧』(95)



平和な国

すべての被造物は、みな創造主の腕の中にあります。最終的なヴィジョンは、すべての男女が一致の内に生きるよう呼ばれている兄弟姉妹であると悟るだけでなく、神の創られたすべてのものが完全な調和の内に一緒になることです。キリストであるイエスは、このヴィジョンを実現するために来られたのです。彼が生まれるずっと前に、預言者イザヤは、それを見たのです。

狼は子羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。
子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く。
牛も熊も共に草をはみ、その子らは共に伏し、
獅子も牛もひとしく干し草を食らう。
乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる。
私の聖なる山においては、何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。
水が海を覆っているように、大地は主を知る知識で満たされる。(イザ 11：6-9)

私たちは、このヴィジョンを生き生きと保たなくてはなりません。

(1210)

ヴィジョンを先取ること

すべての暴力が克服され、すべての男女や子供が自然との愛に満ちた一致の内に生きている平和な国といったすばらしいヴィジョンは、私たちが日々の生活においてそれを実現するように求めています。現実逃避の人間の夢である代わりに、それが約束している事柄をすべて先取るようにと、私たちに挑戦しているのです。私たちが隣人を赦す時、子供のようにほほえむ時、苦しんでいる人に同情を示す時、花束を作る時、家の中の動物や野生の動物の世話をする時、公害を防ぐ時、家や庭を美しくする時、人々や国々の間の平和と正義のために働く時、そのような時はいつでも、私たちはこのヴィジョンが本物となるように努めているのです。

私たちはお互いにこのヴィジョンを絶えず思い起こすようにしなくてはなりません。このヴィジョンが私たちの内に生き生きとしている時はいつでも、私たちは、自分たちがまさにいる所で、それを生きる新たな力を見出すことでしょう。この美しいヴィジョンは、私たちを現実の生活から逃避させるのではなく、その中に巻き込んでいくのです。

(1213)

九里(くのり)　彰訳

『必要なことは、ただ一つだけ』(20)

ルドルフ・V・デ・スーザ　OCD（カルメル会）

祈っている時の能動的な祈り

ここでは、祈っている時の私たちの能動的な役割についてお話します。口祷の祈りを唱えること、読むこと、考察すること、反省すること、イメージや想像力、絵や像を使うこと一神経集中と潜心のためのさまざまな感覚訓練など、これらすべては、祈っている時の活動なのです。ここでは私たちは能動的に祈りに関わっており、時を用いるために一歌っているにせよ、賛美しているにせよ、感謝しているにせよ、想像しているにせよ、神への愛に満ちた注意をもって絵や像を見つめているにせよ一最善を尽くそうとしています。私たちの外部（五感）と内部（空想力、想像力、記憶、知性、意志）は、祈りにおいて能動的となっています。このタイプの祈りは、神に向かう最初のステップであり、何年も続くかもしれません。

その後の祈りの段階でも、この方法を捨てる必要はありません。しかし、主が私たちを***受動的な祈り***に呼ばれているならば、この「能動的な」やり方は、徐々に捨ててゆかなくてはなりません。ここには霊的識別と霊的指導が必要です。時々、私たち自身では、祈っている時に諸能力の活動が止められるべきであるかどうか決断することができません。それゆえ能動的祈りと受動的祈りの間の接合点を正しく判断するために、霊的指導が絶対的に必要なのです。

祈っている時の受動的な祈り

祈りのこの段階では、私たちは神のために自分自身を捨て、受動的となります。ここでは、想像力も空想力も能動的には働きません。外的諸能力も内的諸能力も、神に注意を向けてゆく時にまったく影響力を持ちません。このタイプの祈りはまた、***観想的祈り***とか***静穏（静寂）の祈り***とか呼ばれています。この祈りの間、魂

の深みで実際、何が起きているのかを、私たちは理解することも、理解しようと企てることもできません。私たちは、平和と喜びと愛と善と静寂を私たちの内に深く感じます。そのような深い体験は、ほとんど言葉で言い表すことができません。神ご自身が、あたかも自分自身をゆだねきった患者の手術をしている***医者***のように魂の中で働いているのです。この段階の祈りは、大罪や故意の小罪のない時に起こります。私たちは、そのような祈りの間、まったく怠けていて、何もしていないと感じたり、貴重な時間を無駄にしていると感じたりするかもしれません。16 世紀のカルメル会の神秘家、十字架の聖ヨハネは、このタイプの祈りの真の本質を理解せず、観念やイメージに固執する人々に次のように警告しています。

「このように見れば、多くの人々が神の平安と憩いに満たされた内的静けさがもつ平和な休息の内に心を落ち着けることを望んでいながら、かえって不安を作り出し、一番外面的なことの方に心をとらわれ、今まで歩いてきた方に逆戻りさせるような無駄をし、目的に導く手段にすぎないものについての考察に惹かれて、魂がすでに憩うている終局目的に目をくれないようにするのは、まことに遺憾なことである。

しかしこれは、大きな抵抗と嫌悪感なしにはあり得ないことで、その時、人は、言い表しようのないあの平安を自分自身の場所として、そこにとどまっていたいと思う。これはちょうど、休息の場所にやっと骨折って到達した者が、また、もとの苦しみに引き戻され、辛い思いをするようなものである。彼らは、この新しい経験についての深い意味を知らないため、それは怠慢で、無為の状態だと思い込んでしまう。それで、自分からその静けさを乱し、黙想しよう、考えようと努め、引き出すべきでないところからその糧を取り出そうとする結果、心の乾燥と疲労に満たされる。

それはむしろ、骨折り損のくたびれもうけ、と言えるわけで、無理に努力すればするほど悪くなる。というのは、霊魂は、霊的平安から外に出て、小なるもののために大いなるものを捨て、すでに通り過ぎたところを、もう一度逆戻りすることであり、すでにしてしまったことを、やり直すことだからである。

（続）

九里（くのり）　彰訳

御公現

（マタイ 2：1～12）

占星術の 3 人の博士が生まれたばかりのイエスを訪ねた。これは第一朗読のイザヤ書 60 章の預言が成就したことである。イザヤは預言する。国々がイスラエルを照らす光に向かい、王たちが指し出でるその輝きに向かって歩み（3 節）、そしてミディアンとエファのらくだの大群がイスラエルに押し寄せ、シェバの人々は皆、黄金と乳香を携えてくる(5 節)と。3 人の博士は黄金、没薬、乳香をイエスに捧げたとあるし、多分らくだに乗ってきたのであろうからイザヤの預言によく合うと言える。またゼカリア書 8：23 には「あらゆる言葉の国々の中から、10 人の男が 1 人のユダの人の裾をつかんで言う『あなたたちと共に行かせてほしい。我々は、神があなたたちと共におられると聞いたからだ』」と預言されているが、この実現でもあろう。イエスは異邦人を照らす啓示の光なのだから。またこれは第 2 朗読に出る「秘められた計画」（エフェソ 3：3)の前触れでもある。異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものを一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となることが秘められた計画であった。つまり、幼児イエスが将来切り拓いてくれる救いと贖いの世界は、それまでのユダヤ教という狭い民族宗教の枠をはるかに超えた普遍的なものであり、地上の全民族に向けられたものなのである。

であるから 3 人の博士は、東のほうから来たと書かれているものの、おそらくそれぞれ別の国、別の民族から、不思議な星に導かれてエルサレムに来たのであろう。彼らは多分お互いに言葉も通じなかったであろう。占星術という共通の関心を持っていたので、3 人とも同じ星に導かれてイスラエルを目指していて、ユダヤ人の王となる方に会いたいと切望していることがお互いにわかったことだろう。最初は王であるヘロデの子供として生まれたと考えたに違いない。彼らが宮殿を訪れていることからそう言える。ヘロデは非常に猜疑心の強い男であり、ユダヤ人の王が産まれたと聞かされ、自分の王位を脅かす人間が生まれたのではないかと考えた。祭司長や律法学者に調べさせ、メシアがベツレヘムに生まれると預言されていることを知り、3 博士をベツレヘムに向かわせるが、幼児イエスの居所がわかったら殺すつもりであった。

3 博士がベツレヘムの方角に向かうとまた同じ星が現れ、彼らを導き、ついに聖家族のところに辿り着き、幼児イエスを拝むことが出来た。彼らは喜びにあふれた。夢でお告げがあったので、ヘロデに何も知らせずに自分たちの国に帰って行く。ヘロデは王になる可能性のある者を排除するために、ベツレヘム付近の 2 歳以下の男の子を皆殺しにしてしまった。救い主の誕生は血なまぐさい人間の権力欲で迎えられたのである。

さてこの 3 人の博士が持ってきた贈り物はその後どうなったのであろうか。それは聖家族がエジプトに逃げる際の逃走資金、またエジプトで生活を始めるための費用に当てられたはずである。人間の世界には、ヘロデに代表される醜い欲望と 3 人の博士が代表する清らかな心が同居している。神は、選ばれた民イスラエルに属する者の肉の欲望からは逃げ出し、異邦人の中にある清らかな心が贈る物を受け取り、利用なさったのである。

（とます）

年間第２主日

「わたしの時はまだ来ていません。」

（ヨハネ２：１～１２）

今日の典礼は、カナの婚宴、イエスの最初のしるし、すなわち受肉したみ言葉の内に働く神の力の象徴に焦点をあてています。

物語は、水が奇跡的にぶどう酒に変わったことを強調していません。そのことは直接述べられておらず、世話役の問いの中に暗示されています。変容は、ヨハネ福音書に起こるより深い変容のしるしです。物語は「この最初のしるしを」という言葉で頂点に達します。イエスはその栄光を表し、弟子たちはイエスを信じ始めたのです。弟子たちの反応やイエスとその母の間のやりとりが、物語に劇的な展開をもたらします。ぶどう酒がなくなり始めると、イエスの母はこれに気づき、表面上叱責を受けます。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだきていません」。ヨハネの福音書において、イエスは「上からの」者であり、だれも、彼に最も近しい人ですら、彼を完全には理解していません。しかしマリアは、この神秘に直面する感動的な信仰のモデルです。彼女は即座にこう言います。「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」。そしてしるしは成就します。マリアは、イエスに絶大な信頼を置きながらも、実際には彼が何者であるかを本当には理解していない多くの人々のシンボルです。

とはいえマリアの信仰は、イエスの栄光のまことの現れへと導きます。なぜなら時への言及は、すべての人々を自分のもとへ引き寄せる十字架にあげられる時を、またマリアが完全にキリストの弟子となる時を指し示しているからです。

カナの婚宴は、イエスの最初のしるしを物語っているばかりでなく、聖書的なシンボリズムにも富んでいます。メシアの到来は、しばしば結婚式の披露宴として描かれています（マタ 22：1-14；25：1-3）。イエスによって与えられた大量のよいぶどう酒は、終わりの日における豊かなぶどう酒という旧約聖書のモチーフ（アモ 9：13-14；ホセ 14：8）でもあります。この最初のしるしは、イエス・キリストを通してやってくる恵みと真理の現れなのです（ヨハ 1:17）。

(Sr.Paulina)

年間第３主日

「この聖書の言葉は、今日実現した。」

（ルカ４章２１節）

ルカ福音書には、今日という言葉がよく出る。天使は羊飼いたちに「今日、ダビデの町であなた方のために救い主がお生まれになった」と言い（2:11）、中風の人の癒されるのを目撃した人々は「今日驚くべきことを見た」（5:26）と言う。また、主はザアカイに対して「今日、この家に救いが来た」（19:9）、そして悔い改める盗賊には「あなたは今日、私とともに楽園にいるであろう」（23:43）とおっしゃった。これらの「今日」は、現実にちょうどその日と言うに止まらず、救いが時間的現実に入ってきたということ、今というその時が永遠へとつながっている時であることを示している。時は神の支配下にあり、今という時、今日という日が特別に、恵みによって神に強く結び付けられている。信仰者はこういう時、あるいは日を持つ。パウロはそれを「今は恵みの時、今こそ救いの日である」（第２コリント6:2）と表現している。

文化大革命の時代に信仰ゆえに収容所に入れられていた、あるキリスト者の証を聞いたことがある。彼は、手錠をかけられて尋問され、「毛主席は天国に行くのか」と問われた。これは生死のかかった問いである。「（たくさんの人を死に追いやったので）主席は天国に行けない」と答えたら、殴り殺されるであろう。その頃彼は、夜も昼もひたすら祈っていたので、聖霊に促されるまま、立ち上がって堂々と「天国の扉は誰にでも開かれています。イエスが神の子であると信じ、イエスがその血で罪をあがなわれたと信じ、自分が罪人であることを認め、イエスをその心に受け入れれば、誰でも天国に入れます。恵みの扉は大きく開かれています。今は、救いの時なのです。私は、皆さんが悔い改めてイエスの恵みを受け取り、キリスト者になってくださり、天国に入ることを願っています。」と述べた。共産党員たちが、「お前はまだ説教している」と怒ったが、彼は冷静に「答えろと言ったじゃありませんか。他にどうすればいいのですか」と答え、殴られることはなかった。

この中国人が言った「今」は、文化大革命が進行中だったその頃のある一点を指すだけでなく、永遠へとつながる時である。今まさに彼と共産党員たち（その中には最高責任者である毛沢東も当然入る）が、永遠へとつながる時間を生きていて、そこには神がおられるのである。神が現実に働いておられ、恵みを与えておられるのである。尋問の最中に、まさに神はおられたのである。共産党員たちも自分たちが、愛である神から排除されていないと感じたはずである。神は、永遠へとつながる、濃縮され、凝縮された時間におられる。その「今」は、愛へと命へと光へとつながる今であり、今日である。イエスは公生活中、いつもこういう「今」、「今日」を生きておられたに違いない。私たちが、愛と永遠へとつながる濃厚な時間を真剣に生きるとき、そこにはいつもイエスがおられる。

（とます）

年間第４主日

「預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。」

（ルカ４：２１～３０）

今日の福音でルカは、神によって召されたにもかかわらず、遣わされた所の人々からは反抗され、拒否されるという預言者の聖書的モチーフを表現しています。

先週は、イエスの最初の説教が町の人々から熱狂的に受け入れられ、「人々はその口から出る恵み深い言葉に驚いた」ことを述べていましたが、状況は突然変わってしまいます。人々は、地元の青年がきわめて雄弁に語るのに驚いたように見えます。「この人はヨセフの子ではないか」。拒否は、イエスが彼らの本当の心を読む時、増大します。人々は、カファルナウムで行なった力ある業を彼らの前でも行なうよう望みます。イエスは、「預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ」というよく知られた諺を引きながら、これに応えます。

イエスはさらに、火に油を注ぐようなことを言います。つまり、預言者エリヤとエリシャの似たような二つの話です。エリヤが飢饉の間、サレプタのやもめに奇跡的に食べ物を与える話と、これにエリヤの弟子エリシャがシリア人のらい病者ナアマンをいやす話を平行させています。イエスはここで、ルカにおける彼の使命を先取りしているのです。この後、彼はらい病者を清め(5：12－16)、やもめの息子を生き返らせます(7：11－17)。彼自身が、ルカ福音書の大きなテーマである人々から拒否された預言者となります。

今日の福音は、今日の教会に対する挑戦です。預言者は自分の所ではほとんど受け入れられないのです。

たとえば、ドロシー・デイの平和主義は、長い間、ヒエラルキアにとって当惑の種でした。

私たちの時代の預言者、オスカー・ロメロ大司教は、単に解放の神学に組みし、貧しい人々の側に立ったというだけでなく、教会は「自分たちのものだ」と感じていた上流階級に背を向けたと見なされたために、彼らから憎まれたのです。これらの二人の預言者たちは、キリストの愛の生きた化身であり、かつて彼らを拒否した世界から今は世界的な名声を受け取っています。

(Sr.Paulina)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

13. イエスの聖心の聖テレジア・マルガリタ (1747-1770) ── その2

アンナ・ マリア・ レディは 1747 年イタリアに生まれた。幼少の頃から孤独を求め、既に天に上げられているかのように目を上げている様子が見られた。9才まで自宅で暮らした後、ベネディクト修道女会の寄宿舎に入った。そこで霊的指導を受けるようになり、自分の召命を理解し始めた。1763 年にはっきりしたカルメルへの召し出しを受ける。「私はイエスのテレジアです。私の娘におなりなさい」と。1764 年にようやくカルメルへの入会が実現する。カルメルにおいて、彼女は、その人となりから輝き出る謙遜、従順、英雄的愛徳、完全な喜びのために知られていた。

── 祈り ──

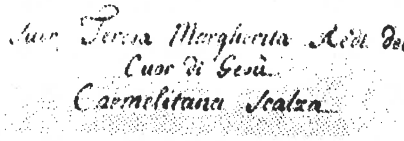
おお、イエス、甘美なる指揮官よ、あなたは十字架のしるしを高く掲げながら、愛をこめて私に言われました。「私があなたに与える十字架を取りなさい。それがあなたにとってどれほど重く思われようと、私に従いなさい。ためらってはならない」と。あなたの招きにおこたえするために、私の天の花婿であるあなたに、もはやあなたの愛に決して抵抗しないことをお約束します。けれども、あなたがカルワリオへの途上におられることを私はすでに見ています。そして、即座に従おうとしているあなたの花嫁はここにいます。……あなたが最も喜ばれることがどんなことであれ、いつも私におこなってください。私は、カルワリオに向かって進まれるあなたに従っているかぎり、すべてのことに満足ですから。道が茨に満ちていればいるほど、十字架が重ければ重いほど、私は一層慰められることでしょう。私は、忍耐強い愛、……固く二心のない愛であなたをお愛ししたいのですから。

私は、進んで私の心を苦痛と悲しみと労苦の餌食としてお捧げします。喜びのないことを喜びとします。私を待っている永遠の宴の前に、まずこの世における断食がなければならないのですから。

私の主よ、あなたは私のために十字架の上におられます。そして、私はあなたのために十字架の上にいるのです。おお、あなたのために苦しむことと沈黙することが、どれほど甘美で、どれほど偉大な価値のあることか、それがただ一度だけでも理解されることができるなら！　おおイエス！　おお愛するお方、苦しんでおられる、善きお方イエス！

羊飼いの娘エルピナは、
この地上でどのように神を愛することができるかを
知りたいという大きな望みに燃えて
ある日、一人で泣いていた。
そして、林の中で言った。
「ああ、誰が教えてくれるだろう。
私を愛してくださる神を愛することを。
みずからお造りになったこの世界の存在に先立って、
同じ聖心の愛をもって
私を愛してくださったその神を……。」

このような悲しみに
一人泣きながら
心の痛みを慰めることもできず
今や隠遁者となったおとめは
気を失って、倒れた
——物想いのとりこになって……。
見よ、彼女の前に
黄金の翼に飾られ
天の喜びにあふれた
優しい天使がふいに立っていた。
百合と薔薇のような
愛に満ちたその唇が開き
美しい調べを奏でた。
「エルピナ、神を愛していないなどと
なぜ言うのですか。
愛したいというあなたの望みこそが
愛そのものであるのに。
それは、あなたの心の秘められた
かまどから燃え出る
甘美な炎であるのに。」



イエスの聖心の聖テレジア・マルガリタの自筆サイン

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ http://www.ignatius.com)の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)

名コンビ

今朝もまた、私の乗り降りするバス停で、早朝一番の６時２５分に乗りました。ステップに足をかけた途端、頭の上から若い男性の声が、“ハイ、お待たせしました。このバスは田園調布行きでございます。お早うございます。”と降ってきました。“えっ、こんな一番バスに車掌さんが乗っているのかな？”と思って右上を見たら、何とタートルネックの毛糸のジャケットを着、頭は七分刈り位にした青年が、ステップで一段と高くなっている、あの席にドーンと坐っているではありませんか。「オヤ、東急の新米さんかな」と一瞬思いましたが、それにしては制服も着ていなければ“見習い”の腕章もない。ただジャケットを着ているだけです。たまたま私は、前日にもバスに乗ったのですが、その時は運転手は見習い中という腕章をし、もう一人の東急マンが見習指導者という腕章をして、坐らずに立ちながら、見習いの運転手を見守っている光景に出くわしたバカリでした。その記憶も新たかなのに、今日の青年はもっと若くて何となくヘン。そう思いながら、私はその青年と同じく、運転手席の後ろの、ひな壇のように高い座席に腰かけました。４・５人の乗客が乗り込んでしまったら、このお兄さん、“ハイ、発車”というと、その通りバスは発車しました。“えツ、何コレ”と思うと、すぐそのお兄さんが言うのです。“左に曲がりますからおつかまり下さい。”ですって。道は左に曲がっているからほんとうなのですが……私は再び“何コレ”と思って、つい左のお兄ちゃんを見たら大真面目なのです。このあたりから私は、このお兄ちゃんは頭が少しヘンだなあ、ああ、そういえば以前にも頭のヘンな人が乗っていたが、もしかしたらこの人だったかも知れない　と思いました。この疑似車掌さんは、それからも大活躍でした。「次は雪ケ谷大塚、雪ケ谷大塚でございます。池上線ご利用の方は、ここでお乗換えです」確かにそう、間違っていない、よくツルツル出て来るものだ　と感心すると同時に、可笑しくて声が出そうになったのですが、ちょうどその時、その青年の高い椅子の下の年寄席に坐っていたおばあちゃん達が、くすくす笑い出しました。私だって可笑しくて可笑しくてお腹の中はくつくつ笑っているのですが、声を出したらいけないので、それはそれは大変なガマンでした。私の前の運転手さんの顔をみたら、もっと可笑しかったでしょうが、運転手さんは、黙ってその通りにバスを運転しています。だって、何も間違いないし、その昔、ワンマンカーになる前は、これらのセリフは全部車掌さんが言っていたのですから……次は〇〇駅です。そして、またもや運転手さんは静かにそこでストップ。

しました。すると、またあのお兄ちゃんが“バスが止まってから席をお立ち下さい”というのです。ほんとうに運転手や録音盤が言う通りに全部言ってくれるのです。「赤」の停止信号のところにきたら、“停止信号です。少々お待ち下さい……（そして信号が青になると）ハイ、発車……”そうしたら運転手さんはほんとうに発車しました。勿論声に頼らなくとも、自分の目で信号を確認して発車させたでしょうが……運転手さんの顔は全く見えないのですが、どの瞬間も、指令塔の言う通りに運転している　といった感じでした。何も注意がない箇所では、“席は譲り合っておかけ下さい。”ですって。私の笑いは絶頂に達し、とうとう声に出して笑ってしまいました。　ついに田園調布駅に着きました。私は今度は運転手さんの表情を見ました。落ち着いて取り乱していない。さすがは東急マンだなあ。この落ち着きが大切。この精神的にヘンな人を黙って受け容れると同時に、乗客を無事に送り届けた沈着さ。私は東急にお礼を言いたくなったのですが、反面お腹の皮は、笑いをガマンした結果痛くなり、正常に戻るまでに、４・５０分はかかってしまいました。

お告げのフランシスコ姉妹会　　Ｓｒ．熊田　照子

この小さな群れをどこへ？ —— ②　　スッカ

ネパールはポカラに二年半前に誕生した、知的障害者通所施設、セワ・ケンドラについて前号で少しお話しした。
カトリック教会に関わっていると、年中何かしら「良いことのための募金」の呼びかけがある。途上国の前途ある若者のための奨学金・学校を作る、病人を救う、災害被災地への義捐金、などなど。すべて大切なこと。　でも、そんな時ふと考える。

セワ・ケンドラへ注ぐお金、社会のためになるという意味ではほとんど役に立たないのだろうか？　セワ・ケンドラいる障害者たちは、成長しても社会の一角を担って仕事をしたり、次世代を育てたりするわけではない。これは捨て金か？
　発想の転換が必要だ。「役に立つって、何だ？」

セワ・ケンドラの現地の責任者（ラム・ナラヤン・シュレスタ氏）のことばを、ブログから引用する。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊　セワ・ケンドラの日々　１１月１３日の記述より

先日、ポカラで「知的障害児を持つ親の会」のミーティングがあった。

ラム・ナラヤン（ダミアン）さんも、「一人の親」として参加した。
セワ・ケンドラやシシュビカス・ケンドラの父兄も含め、30人ほどが集まったこの会で、
彼はこのように話したという。

「障害を持っている我が子は、障害を持っていない我が子よりも
大事に世話をする必要があることを、親自身がもっと知らなければいけない。

障害のある子どもを、神さまは誰にでもくれるわけではないでしょう？
私たちみたいに、特別な人にだけくれるのです。

障害のある子を授かった私たちは、
だから幸せな者なのです」　と。

これを、単なる障害児学校や施設の教員が言ったのなら、「言葉では何とでも言える」と思えてしまうのだが、彼はダウン症児の父であり、周りがあきれるくらいダウン症のエレナを愛し、可愛がり、世話をして育ててきたのだ。だからこそ、言葉に重みがある。

そして彼のメールは続く。

「私たちは　本当に幸せですね！　どう思いますか？　スッカさん、こんな人が集まる
セワ・ケンドラをサポートすることのできるアカナ会の人たちも　幸せですよね！！！？」　と。

はい、幸せですとも！！

日本で稼ぐ少ないお金でも、ポカラでこのように
何人もの障害者のために生かされると思うと、ほんとうに
働き甲斐もあり、幸せな気分になれる。

スタッフが生きがいと思って働き、障害者が喜んで集ってくる場を
提供できるなんて、私たちにとっても幸せでうれしいこと！！

「障害児を持って幸せだ」と公の場で言える人、
そんなラム・ナラヤン（ダミアン）さんをサポートできるのが幸せ。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

セワ・ケンドラに通ってくる知的障害者の親の中には、貧しくはないはずなのに、障害を持つ子にお金をかけたがらない人も少なくない。　それを彼は心底悲しそうに私に話す。

彼にとっては「障害があるからこそ、その子はもっと愛されるべき存在」なのだから。

彼の家にいる二歳の男の子は、生まれてすぐ「育てられない親」からもらってきた子。我が子同様に一家でなめるように可愛がって育てている。

そんな彼に導かれた「小さな群れ」セワ・ケンドラは幸せ者の集まり！！！

URL　　セワ・ケンドラの日々　　http://sewa.pokhara.jp/

「キリスト教との最初の出会い」①ー不思議なお守り

「父と子と聖霊の御名によってわたしはあなたに洗礼を授けます。」
毎年、復活徹夜祭が巡るたびにあの懐かしい光景が甦ってきます。
全くキリストについて知らない私達の家族…もし私が鎖国時代に生きていたら、きっと島流しだったでしょうか。

「おめえ、何考えでんのか！わげ分がんねえ洗礼なんか受けでっ！キリストにだまされだんだべ！桑葉家の恥だっ！出てけっ」

洗礼を受けたばかりのころ、両親に説明しても理解してもらえず、泣きながら神父様の所に走って行った事が昨日の事のように思い出されます。洗礼を授けてくださった学識高い G 神父様は時々、司祭間のイチジクの木の下で「教会の祈り」という本を手にして立っている姿をよく見かけました。
会う度にいつもユニークな言葉が返ってきたものです。

「どうした？そんなに泣いて。またニワトリが三回鳴いたのかね。」
（ルカ 22・61~62）

家族に会う度、話の通じないキリスト論争で私はとても疲れ、一人ぼっちでした。頼る人もなく、知人もなく、たった一人で東北から北海道へ来た島流しも今思えば、キリスト者としての最初の試練だったのだろうか？と思うことがあります。

「一粒の麦が落ちて。そこから新しい命が生まれるように今ある苦しみもいつか必ず、恵みに変わりますよ。」
（ヨハネ 12・24～25）

麦の穂が子供たちの顔に変わったという話をよくしてくれた代母シスター U 先生の優しい笑顔が今も忘れられません。

音のない世界に生まれ、厳しい両親の元で育ち、毎日続く発声練習。手話を使うことは禁じられ、聴覚障害者であるという誇りをもつことなく、それよりも健聴者に合わせて我慢して生きよ。と言われ続ける事はとても苦しかったものです。

思うように友達と会話ができない寂しさの中で洗礼を受け、札幌に来て信じられない光景を見たとき（北 26 条教会の手話ミサ）生まれて初めて私は障害である事は恵みであり、一人ぼっちではないのだと知りました。いつも生き生きと手話通訳してくれる人がいる。そう思うだけで希望がわいてきます。「祈るだけではなく、行動に出たとき、初めてキリストになるのだよ。」と教えてくれた B 神父様、司教館で働く神父様が手話もできると知った時

は、北海道の人たちが皆、天使にみえたようです。信仰深い謙虚な函館生まれの聾唖者の T さん。旧約聖書の意味を分かりやすく教えてくれたシスターT さん、寒さにも大雪にも負けず通い続け手話ミサ通訳してくれた今は亡き H さんとの出会い。

「はよ、あんた…洗礼受けなさいよ。こんなところにキリストのご聖体貼りおって！」、大阪なまりのシスターG の一言で私の人生はすべて変わっていきました。

一期一会という言葉があります。

キリスト教をまだ知らなかった私は人間関係に疲れ、一度だけ、京都に旅をしたことがありました。あれは悩み相談の行列だと思ったのです。無料だと聞いてあのお守りを配っているお坊さんだったら、きっと悩みを聞いてくれると、河原町カトリック教会の拝領とも知らず、ご聖体を本に挟んでセロハンテープで貼っておいたのです。今でもその丸坊主の神父さまのことは知りません。でも、その一回だけの間違った出会いがなかったら、私はカトリックの洗礼を受けることがなかったかもしれません。神様のなさる計画は本当に面白いものだとつくづく思います。

「医者を必要とするのは健康な人ではなく、病人である…私が来たのは罪人を招くため。」（マタイ 9・12~13）

新しい人が初めて教会にみえる時、また自分が正しいキリスト者だとふと思ってしまう時、キリスト教をまだ知らずに何かを探し求めていたあの頃の自分を思い出し、周りの方々の励ましと勇気の言葉に力づけられながら一歩一歩…天のふるさとに向かって歩いていきたいと思っています。

一人でも多くの人がキリストの広く深い愛にどうか心の目と耳が開かれますように。と祈りつつ…

北 11 条カトリック教会所属　　桑葉　睦子

いのちの言葉　12月

いかに幸いなことでしょう。
あなたによって勇気を出し、心に聖なる旅を決意する人は。　（詩編８４・５参照）

このみ言葉を記した詩編の作者は、エルサレム神殿へ巡礼に行ったことがありました。彼は、神殿に巣を作るツバメのように、そこにとどまりたいと思ったのですが、自分の町に帰らねばなりませんでした。戻った後も、彼は神の存在を経験した「主の庭」に郷愁を覚え、神殿を再訪しようと決心し、エルサレムに向かって旅に出ます。その旅は、再び彼を「神の前」へと導く「聖なる旅」でした。様々な文化や宗教に見られるように、ここでも、人生は旅にたとえられています。

「聖なる旅」は、神に向かう私たちの道のりを象徴的に表現する言葉です。実際私たちは、「死」ではなく、「出会い」と呼べる一つの目的に向かって歩んでいます。それは、神と出会う「新しい命」の始まりであり、神は私たち皆をこの命に定め、招いておられます。

だとすれば、私たちはこのゴールを念頭におきながら、人生を築くことができるのではないでしょうか。この一度限りの人生を一つの旅、私たちを待っておられる「聖なる方」に向かって歩む「聖なる旅」にできるでしょう。

神は、私たち皆が聖なる者となるよう望まれ[1]、招いておられます。神は、私たち一人ひとりを限りない愛で愛され、私たちが歩むべき道と、一つのはっきりしたゴールとを定めてくださいました。

いかに幸いなことでしょう。あなたによって勇気を出し、心に聖なる旅を決意する人は。

現代社会では、能率主義や過度の活動主義がもてはやされ、一定の職業が他よりも重んじられたりしています。そうした中で、人々は死や病気など人生の苦しみについて語るのを恐れ、そのようなことが存在しないかのように生きています。

私たちも、こうした傾向に影響を受け、真実が見えなくなって、本当に意味あることには力を注いでいないかもしれません。休息の日は必要なく、祈りの時間は余計なものと考え、神が愛ゆえに許して起こされる病気や様々な困難も、厄介な出来事と見なしているかもしれません。

では、聖なる旅を真剣に歩み続けるには、どうすればいいでしょうか。それは難しくはありません。自分の思いでなく、神の御心を生きることです。私たちが今の瞬間の神のみ旨を一つ一つ果たすなら、特別な恵みが与えられることを心にとめましょう。それは「助力の恩恵」と呼ばれる本当に大きな賜物で、私たちの知性を照らし、感性や意志が善に向かうよう導いてくれる恵みです。

信仰を持たない人も、正しい道を誠実な心で歩むなら、すばらしい人生を築くことができるでしょう。

いかに幸いなことでしょう。あなたによって勇気を出し、心に聖なる旅を決意する人は。

もし人生が、神のみ旨を生きながら進む「聖なる旅」だとすれば、私たちは、日々歩み続ける必要があります。愛する人は、一層成長し、向上するよう促され、招かれるのを心に感じます。昨日までの生活で満足せず、「今日は、昨日よりもっとよく」と、時々自分にくりかえし言ってみましょう。

時には、私たちが歩みをとめ、再び過ちや怠惰に陥って後退するようなことがあるかも

[1] テサロニケの信徒への手紙一　4·3 参照

しれません。そのような時、自分の失敗に落胆して、聖なる旅を続けることをあきらめてしまわずに、「もう一度やりなおす」という言葉を、私たちのモットーにしましょう。

過去の過ちや罪を神の憐れみに委ね、私たちは再出発できます。

今月のみ言葉も、「神によって勇気を出す」と語っていますが、自分の能力よりも神の恵みに全面的に信頼し、私たちは再び立ち上がることができます。毎日、聖なる旅の初日を迎えるような気持ちで、もう一度始めましょう。

そして何よりも、このように生きる仲間と愛の内に一つになって、助け合いながら、私たちは共に歩むことができます。「聖なる方」イエスが、私たちの間にいてくださり、彼が私たちの「道」となるでしょう。イエスは、私たちがもっとよく神のみ旨を理解できるようにし、み旨を果たしたいという望みとそれに必要な力とを与えてくださるでしょう。そして、私たちが一致しているなら、すべてがもっと易しくなります。私たちは「聖なる旅」を歩み始める人に約束された至福を味わうでしょう。

いかに幸いなことでしょう。あなたによって勇気を出し、心に聖なる旅を決意する人は。

今月のみ言葉は、一人の友人のことを思い起こさせます。

彼の名はエンツォ・フォンディといい、1951 年、22 歳の時に、フォコラーレを通じて全面的に神のために生きる決心をしました。医学部を卒業後、東ドイツのライプチヒの病院で医師として働きながら、「鉄のカーテン」の向こう側でも福音の愛を証しし、やがて司祭に叙階されました。後に、この愛のメッセージを伝えるため、アメリカにも渡り、最後の数年は、フォコラーレの諸宗教対話のために尽力しました。

このように彼は色々な場所に行き、様々な任務を経験したわけですが、「神のみ旨を行いながら、神に従う」という唯一の目的を持って生きていました。

エンツォの「聖なる旅」は 2001 年の大晦日の晩に完成しました。彼はオフィスのコンピューターを前にし、机にうつぶせの姿で発見されました。穏やかな顔には苦しみの影は見えず、亡くなったというよりも、その部屋から「もう一つの部屋」に静かに移った、という感じでした。

死の 15 日前、エンツォは次のように記しています。

「私が人生の最後にしたいこと、言い残しておきたいこと。私にとって『最後の神のみ旨』とは、神が今、私に望んでおられることです。最後の神のみ旨を完全に果たしておくこと。それが何であろうとも、私が生涯の最後にしたいことだからです。人生の中で果たす最後の神のみ旨が何かはわかりませんが、唯一わかっているのは、今の瞬間と同様、人生最後の時にも、神のみ旨を果たすため、私には助力の恩恵が与えられる、ということです。ただしそれも、私がその時までどれほど毎瞬間をよく生き、この恩恵を活用してきたかにかかっているのです。」

キアラ・ルービック
（2006.12）

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

友人達とのクリスマスパーティーで、私はＹさんの隣の席に座りました。彼女はとても大きな病気を抱えていました。
パーティーが始まってしばらくして彼女は、病気のことや、母親の看病のことなど、苦しかったここ数年の出来事を話し始めました。回りの友人達の楽しそうなおしゃべりや笑い声が聞こえてきましたが、私はまるで彼女と二人だけでそこに居るような気持ちで、彼女の想いを受け止めながら、最後まで話を聞きました。翌日「あなたが真剣な目で私の話をずっと聞いてくれた事がとても嬉しかった。」というメールが届きました。その日から、彼女が最後に入院する時まで、私たちはメールで霊的な分かち合いをする事ができました。

（長崎市・Ｈ）

フォコラーレ：連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
いのちの言葉のホームページ
http://www.geocities.jp/focolarejapan/

久しぶりに荷物の整理をしたら、10数年前の荷物の中から下記のパンフレットが出てきた。時代は高齢化社会の入り口、読みながら身につまされる。是非皆さんに紹介したいと強く思った。この文面のままに、あるいは自分の身の回りにふさわしい新しい文を入れ、祈り、実行していただきたい。ちなみに、この『老人の友人に対する至福』は、桐生市にある聖フランシスコ修道院が作成したパンフレットを書き移し、写真をつけたものです。

カルメル会　Br.原　　造

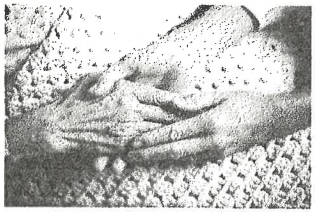
『老人の友人に対する至福』

私のよろける足どりと
　ふるえる手を理解してくれる人は幸いです。
私の耳は、人のいう言葉を聞きとるためには、
　大きな努力が必要であることをわかってくれる人は幸いです。
私の目はうすくなり、私の行動はのろいということを
　善意のうちにわかってくれる人は幸いです。

私がコーヒーをこぼしても、かわりない
　平静な顔をしてくれる人は幸いです。
しばらく立ちどまって
　明るくほほえみながら
　おしゃべりしてくれる人は幸いです。

「今日はその話を二度も聞きましたよ。」と
　決して言わない人は幸いです。
楽しかった昔をとりもどす方法を
　知っている人は幸いです。
私が愛されており
　ひとりぼっちでないことを
　教えてくれる人は幸いです。

私には十字架を担う力がないことを
　わかってくれる人は幸いです。
愛情深く、人生の最後の旅路の日々を
　なぐさめてくれる人は幸いです。



ある少年に

蛭田　幼一

きみは傷つきやすい気持ちの持ち主だ
多感な　優しい心を持っている

それがなんだ　そんなものは生きてゆく上で
何の足しにもならない　と　きみは云うだろう

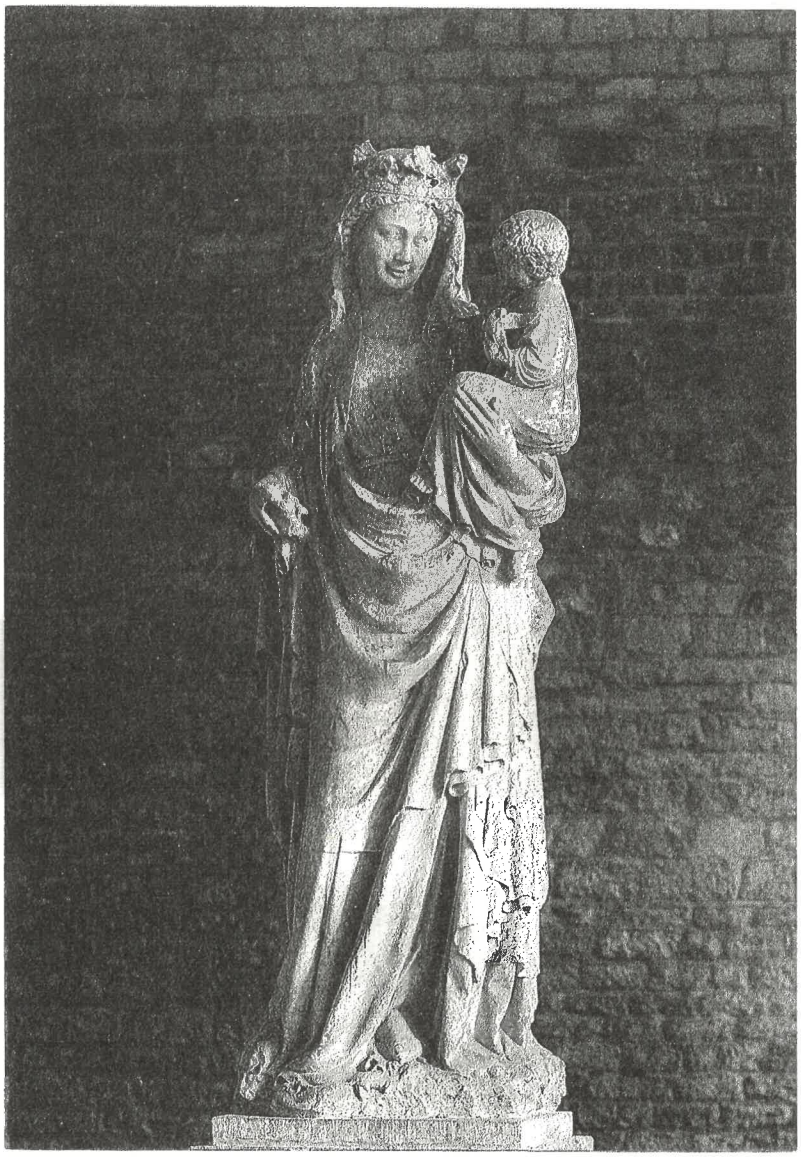
それくらいなら少しくらい悪くったって
頑丈に生きていったほうがましだと

（それ　そこの真下の竹藪で
きのうは鶯の鳴く音が聞こえていたぜ）

いいよ　分からぬことは気にしないで
だがいつまでも傷つきやすい

優しい心を持っていることだな
いくら呟いても　目をつけられたら終わりだぞ

＊同じ詩を先月号に掲載しましたが誤字、脱字がありました。作者の蛭田氏に深くお詫びを申し上げます。
訂正した作品を改めて掲載しました。



21.389.019
ABBAYE DE FONTENAY (XIIe s.)
Abbaye Cistercienne fondée par Saint-Bernard en 1118.
La Vierge (XIIIe siècle)
Notre-Dame de Fontenay.

カルメル会の企画案内

九州大会の企画案内

東　京

上野毛霊性センター　'07年1月～'08年3月

A　黙想企画　＊＊　聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1.　聖書深読（毎回土曜日　夕食～日曜日16時）

2月24日～25日　九里彰師
4月14日～15日　九里彰師
7月　7日～　8日　九里彰師
12月15日～16日　九里彰師
08/　2月23日～24日　九里彰師

一日聖書深読（毎回土曜日午前10時～午後4時）

10月13日　九里彰師
11月17日　九里彰師
08/　1月12日　九里彰師
3月15日　九里彰師

2.　奉献生活者のための黙想会

7月26日（木）夕食～　8月　4日（土）朝　九里彰師
8月21日（火）夕食～　30日（木）朝　福田正範師
12月26日（水）夕食～08/1月4日（金）朝　福田正範師

3.　木曜黙想会　一般黙想（毎回木曜日10時～16時）

2月15日	ザアカイの回心	九里彰師
4月12日	私の心は燃えていたではないか	福田正範師
5月10日	私はぶどうの木、あなた方はその枝である	九里彰師
6月28日	思い悩んではならない	福田正範師
7月　5日	子よ、元気を出しなさい	九里彰師
10月25日	あなたの信仰が、あなたを救った	福田正範師
12月20日	お言葉どおり、この身に成りますように	九里彰師
08/　1月31日	主よ、助けてください	福田正範師
2月28日	見えない者は、見えるようになる	九里彰師
3月27日	あなた方に平和があるように	福田正範師

4.　金曜黙想会　カルメルの聖人（毎週金曜日10時～16時）

1月12日　十字架の聖ヨハネによる「生きる神との出会いの幕屋」　松田浩一師
3月16日　アヴィラの聖テレジアによる「主の証し人」　松田浩一師
4月27日　十字架の聖ヨハネの「無の道」　九里彰師
5月25日　カルメルの父　聖ヨゼフ　福田正範師

東　京

7月20日	カルメルの元后　聖マリア	福田正範師
9月21日	アヴィラの聖テレジアの説く「従順」	九里彰師
10月　5日	リジューの聖テレジアが生きた「祈り」	九里彰師
11月　2日	自分に死に、あなたに生きんことを	福田正範師
12月　7日	三位一体のエリザベットの示す「天国」	九里彰師
08/　2月　8日	御復活のラウレンシオ	福田正範師

5. 青年黙想会　九里彰師　神学生

5月4日（金）20時～　6日（日）・・（4日は夕食を済ませてご参加ください）

11月23日（金）～24日（土）・・受付15時から

6. 召命黙想会（男女）　九里彰師、

4月21日（土）～22日（日）・・受付15時から

11月9日（金）20時～11日（日）・・（9日は夕食を済ませてご参加ください）

7. 大祝日のミサに与かるために

【クリスマス】・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

12月24日（月）～25日（火）《講話、夕食なし》

【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

4月　5日（木）～ 8日（日）《講話なし、各食事つき》

08/　3月20日（木）～23日（日）《講話なし、各食事つき》

8. 特別黙想会　伊従信子　（ノートルダム・ド・ヴィ）夕食を済ませてご参加ください。

A【私は神を見たい】・・・聖霊に導かれて　6月29日（金）～7月1日（日）

B【私は神を見たい】・・・祈　り　10月26日（金）～　28日（日）

……

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03－5706－7355
FAX　03－3704－1764
Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

B　カルメル霊性研究クラス（九里　彰神父）*注意！開始時間変更*

＊　十字架の聖ヨハネ『霊の賛歌』

　　１月１０日　　「第２９の歌と第３０の歌」
　　１月３１日　　「第３１の歌と第３２の歌」
　　２月２１日　　「第３３の歌と第３４の歌」

＊　アヴィラの聖テレジア『完徳の道』

　　１月１７日　　（第３８章と第３９章）
　　２月１４日　　（第４０章と第４１章）
　　２月２８日　　（第４２章、全体の分かち合い）

どちらも水曜日夜７：１５～８：４５まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。今から参加もOKです。上野毛教会信徒会館２階２６号室。無料。

C　祈りの集い（九里　彰神父）*注意！開始時間変更*

　　１月２６日　　「この聖書の言葉は、今日、…実現した。」
　　２月２３日　　「兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。」

毎月一回金曜夜７：１５分より。上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

７：１５～８：１５　み言葉と念祷
８：１５～８：４５　分かち合い（参加自由）

D　キリスト者の信仰の歩み ～キリスト教霊性の初歩～

（松田　浩一神父）

　　第八回　　１月５日（金）
　　第九回　　２月２日（金）
　　第十回　　３月２日（金）

１９：００～１９：３０　初金ミサ　　（上野毛教会聖堂）
１９：４０～２０：４０　勉強会　　（上野毛教会信徒会館２階２６号室）

＊　参加費は無料。対象はキリスト者としての信仰を深めたい人とキリスト教に関心のある人。持ってくる物は、聖書、筆記用具、ノート。

E　東西霊性研究クラス　（九里　彰神父）予告

カルメルの霊性を通して、広く諸宗教の霊性を学ぶため、４月から開設します。

＊　原則として毎月第二金曜日（午後７：１５～８：４５）信徒会館２６号室
＊　各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。
＊　第一回　４月１３日『行持』（道元著『正法眼蔵』岩波文庫第一巻、第十六）

東　京

新たな時を迎えて生きる

慈しみ深い神を探す若者たちの集い（C.Y.C.）

2007年を迎えて、神様の恵みであるイエス様に再び目を向けて、私たち一人ひとりをどこへ導こうとしているか、一緒に祈りながら話し合ってみませんか。カルメル会の諸聖人の取次ぎを願いながら、集まってみましょう。

日時：　1月14日(日)13:30から16:30まで。

対象：　18歳以上30歳までの青年男女。
スタッフ：　上野毛修道院のカルメル会士たち
場所：　カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
東急大井町線　上野毛駅下車　徒歩5分

プログラム：

13：30～	受付開始（13：45～：はじめの祈り）
14：00～14：40	イエス様の教えの新しさ
14：40～14：50	休憩
14：50～15：30	イエス様の教えを私たちの生活に照らして
15：30～16：00	青年たちのための祈り・賛美・祝福
16：00～16：30	茶話会
16：30	解散

参加ご希望の方は、お手数でもFAXまたはE-mailに住所・氏名・年齢をお書きの上、下記宛に送ってください。当日の飛び入り参加もOKです。直接会場にお越しください。

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメル家族に支えられて、イエス・キリストが示してくださった「いつくしみ深い神の姿」を追い求め、その神様に出会おうとする集まりです。この集まりは、家庭的な雰囲気の中で、「隠れている宝」に対する信仰を養っていきます。今後の予定；2月12日（月）『ルルドの聖母とカルメル会士：ヘルマンコーヘンの生涯』

（連絡先・問い合わせ）
カルメル修道会カルメル・ユース・クラブ
（C.Y.C.）係　　松田神父
〒158-0093　世田谷区上野毛2－14－25
TEL　03－3704－2171　FAX　03－3704－1764
E-mail　tokyo@carmel-monastery.jp
carmeltokyo@yahoo.co.jp

‘07年1月～’08年3月まで　黙想会案内　（宇治カルメル会）

＊＊宇治聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1.聖書深読

① 一泊二日（午後5時～午後4時）

	1月27日（土）～28日（日）	新井延和神父
	3月10日（土）～11日（日）	渡辺幹夫神父
	5月19日（土）～20日（日）	中川博道神父
	7月21日（土）～22日（日）	新井延和神父
	9月15日（土）～16日（日）	中川博道神父
	11月17日（土）～18日（日）	渡辺幹夫神父
08/	3月　8日（土）～　9日（日）	新井延和神父

② ミニ深読　（午後14時～午後16時）

2月13日（火）　深読スタッフ

2.水曜黙想（午前10時～午後4時）

	1月10日	一年の歩み	新井延和神父
	2月14日	聖ヨゼフ	中川博道神父
	3月14日	主の十字架	渡辺幹夫神父
	4月11日	復活	新井延和神父
	5月23日	聖霊	長岡幸一神父
	6月20日	み心	ベルナルド神父
	7月18日	カルメルの聖母	カルメロ神父
	9月19日	エディットシュタイン	渡辺幹夫神父
	10月17日	アビラの聖テレジア	アロイジオ神父
	11月14日	日常の聖性	中川博道神父
	12月12日	十字架の聖ヨハネ	新井延和神父
08/	1月16日	新しくなる	渡辺幹夫神父
	2月20日	聖書の祈り	新井延和神父
	3月12日	主の受難	カルメロ神父

3.四旬節黙想（午後5時～午後4時）

	3月3日（土）～3月　4日（日）	新井延和神父
08/	2月9日（土）～2月10日（日）	カルメロ神父

4.待降節黙想（午後5時～午後4時）

	12月1日（土）～12月2日（日）	渡辺幹夫神父

5.聖テレ-ズの黙想　（午後5時から午後4時まで）

	9月30日（日）～10月1日（月）	伊従信子

京　都

6.一般のための黙想会（修道者も可能）

4月28日（土）～5月5日（土）　　中川博道神父

7.日曜黙想会（午前10時～午後4時）

6月10日　　渡辺幹夫神父

10月　7日　　渡辺幹夫神父

8.奉献生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月　2日（木）～　8月11日（土）　　中川博道神父

8月18日（土）～　8月27日（月）　　渡辺幹夫神父

10月20日（土）～10月29日（月）　　渡辺幹夫神父

12月27日（木）～　1月　5日（土）　　カルメロ神父

9.青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月4日（日）　カルメル宣教修道女会　中川博道神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

＊申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL　0774-32-7016　FAX　0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（２００７）

この会は、現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ２８：２０）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみてはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

第１回	１月１６日（火）	神の現存の体験	松田浩一神父　（上野毛修道院）
第２回	２月１２日（月）＊祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父　（宇治修道院）
第３回	３月２１日（水）＊祝	赦しの秘跡	新井延和神父　（宇治修道院）
第４回	４月１７日（火）	聖体の秘跡	カルメロ神父　（宇治修道院）
第５回	５月１５日（火）	結婚の秘跡	九里彰神父　（上野毛修道院）
第６回	６月１９日（火）	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父　（宇治修道院）
第７回	７月１６日（月）＊祝	カルメル山の聖母	新井延和神父　（宇治修道院）
第８回	９月１１日（火）	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父　（日比野修道院）
第９回	１０月１６日（火）	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.ベアトリス　（宇治修道院）
第１０回	１１月２３日（金）＊祝	病者の塗油	ベルナルド神父　（宇治修道院）

＊　時間　AM10:00～PM4：００
＊　場所　カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約５分)　＊聖テレジア幼稚園隣接
　　（駐車場は利用できません。）
＊　費用　1,000円
＊　持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
＊　定員　約２０名
＊　プログラム　１０：００～　祈り
　　１０：４０～　講話【１】
　　１２：００～１２：４５　昼食
　　１２：５０～　赦しの秘跡または短い面接
　　１３：３０～　講話【２】
　　１４：４５～　ミサ
　　１５：３０～　茶話会
　　１６：００～　終了

☆　空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名･住所・TEL を記載の上、開催日の３日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター一日静修係
〒４５６－００６２　名古屋市熱田区大宝４－５－１７カルメル会日比野修道院　FAX 052-671-1825
または、〒４６５－００５８名古屋市名東区貴船３－２１１５　小林厚　TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

1　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
2　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
3　京　都（毎回土曜日）

1月13日	渡辺幹夫神父	7月14日	P．オヘール神父
2月　3日	一場修神父	9月　8日	新井延和神父
3月　3日	一場修神父	10月　6日	P.オヘール神父
4月21日	奥村豊神父	11月17日	奥村豊神父
5月12日	新井延和神父	12月　8日	新井延和神父
6月　9日	渡辺幹夫神父		

＊日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場　所：河原町カトリック会館６階又は７階
費　用：各回 2,500 円（昼食代を含む）
時　間：午前１０時～午後４時　　持参品：聖書・筆記用具・ノート
申し込み・問い合わせ　*（お申し込みは、各回３日前までに）*
〒604-8006　京都市中京区河原町通三条上ル
河原町カトリック会館内　聖書委員会
ＴＥＬ：075-211-3484　　ＦＡＸ：075-211-3910

4　名古屋聖書深読会
4月14日（土）　日比野カトリック教会　　新井延和神父
5月19日（土）～20日（日）　宇治カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
中川博道神父・奥村一郎神父
10月　6日（土）　日比野カトリック教会　　中川博道神父

＊　毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
＊　定員 21 名　申し込みは FAX かハガキでお願いします。
＊　コースは深読法を集中的に行う一日コースと全工程を沈黙のうちに黙想しながら１泊２日のコースがあります。
＊　対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキか FAX で、氏名、住所、TEL を記入の上開催の３日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058　名古屋市名東区貴船 3-2115　　小林　厚・晃子
TEL/FAX052-701-3685

お知らせ

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。
費用：６ヶ月 17,900 円（4、7、10、１月に納入）　継続の場合は 15,950 円
講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）
問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部
電話 03-3344-2527（直通）

2　有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはいないので、コメントや解読はない。
費用：１回 300 円　　年 10 回 3,000 円
送り先：〒663-8033　西宮市高木東町 31-20-504　有光信子
ＴＥＬ／ＦＡＸ　0798-67-8132

3　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。
聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。
遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒベアトリス指導に行くことも可能です。
問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒベアトリスまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒベアトリス
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

徒歩巡礼　11/11(sat)

三位一体のエリザベット帰天１００周年記念

上野毛教会

調布女子カルメル会

三位一体のエリザベット帰天１００周年記念徒歩巡礼

芳賀梅ゑ

“調布女子カルメル会においての記念ミサ”に参加させていただきまして有り難うございました。初めには愛のコースを選びましたが、信のコースに換えました。三位一体のエリザベットのご本は 10 年前から拝見しておりました。今年、四旬節の講話シリーズが三位一体のエリザベット様のお話でございましたので、神父様方始め諸先生方のお話を拝聴させていただきました。また海外巡礼も企画されておりました。この度の 100 周年記念巡礼には参加させていただき、とても感謝しております。三位一体のエリザベット様の教えはご本を通して受洗した信者の生活に信仰の心得をひしひし諭しておられるように思います。同じくカルメル会で生きた短い人生を私達にも指し示す教えを心に深く刻ませていただきました。この教え導きを日々の生活の中で生かしてゆきたいと思っております。感謝と祈りのうちに。

三位一体のエリザベット帰天１００周年記念巡礼の旅の感想

富岡　未峰

調布女子カルメル修道会への巡礼は、雨は降ったものの、大変すばらしい体験でした。この小さな旅は、エリザベットの三位一体への祈りを「Ubi caritas」を挟んで歌いながら始まりました。「どうか私の魂がすでに御国に住んでいるかのように」とエリザベットは祈ります。私たちもこの思いを心に沈めながら歩き始めました。

途中雨が降り、雷もなったことがありましたが、兄弟姉妹と話し合い、助け合い、また賛美歌を共に歌いながら歩む道はとても楽しかったです。クライマックスはやはり、女子カルメル会のシスター方とともに祝った御ミサでした。シスター方は、神様の清らかさで満ちていて、歌声は天国から来るようでした。安らぎと喜びの霊の優しい風が吹き込んでくるようでした。御ミサ後には、シスター方の前に行く機会が設けられました。神様の光と栄光、そして先ほどの霊の風がこの群れから発せられてくるのがわかりました。また、これは、愛し、愛される空間の広がりでもありました。中央で車椅子に座っていらっしゃったお年のシスターは、姉妹たちから大変深く愛されていて、またご自身も深い愛によって姉妹たちを愛しているのが伝わってきました。とてもやさしい、慈しみ深い目で私たちを眺めておられました。わたしもシスター方の心の内の神様の愛と栄光にもっと近づきたくてたまりませんでした。カルメル修道女会のシスター方、どうか私たちのことを心に思い起こし、共に祈ってください！

徒歩巡礼に感謝

鎌田　幸子

女子カルメル修道院まで歩いて２時間、着いた時には門の前で一人のシスターの迎えを受け、ミサには少し時間があったので。お御堂に腰をおろし、しばし三位一体のエリザベットへの思いに沈んでいました。

夏の頃から準備のため何冊かの本を読みましたが、「神は私のうちに私は神のうちに」、これは誰にとってもすべてのうちにすべてであることを示して下さり、又、「孤独と沈黙」こそが神の声が聞こえる場所と言われます。この事が分かれば、私たちも孤独をもっと楽しくもっと大切にすることが出来るでしょう。

三位一体のエリザベット、彼女は神と二人で自分を名前のとおり完成させた方、名は体を表すといいますが、その名を神へ向けて完成させていくもう一つの道が私たちの課題なのかもしれません。

徒歩巡礼に感謝。

今春、洗礼をいただいた某女子修道院に久しぶりに伺いました。
たまたま応対してくださった誓願 53 周年のシスターが、「金祝を期にリセットして今年 3 年目なの」の言葉に深く感動して、」堅信から 15 年を経過した私もシスターに倣って信仰のリセット。信仰元年に相応しいこの企画を知った時、日頃の運動不足を解消すべく参加させていただこうと思ったものの、上野毛・深大寺間は、何度か車で移動したことはありますが、歩ける距離なのだろうか？が真っ先に頭をよぎりました。

三位一体は、父と子と聖霊であることは書くまでもありませんが、跣足カルメル会の男子・女子・在俗者会や、私達カトリック者が手紙の文頭に記す JMJ の聖家族も三位一体な事でしょう。また、巡礼先の調布女子カルメル会は、三位一体に捧げられた修道院でもございました。

朝 6：15 の集合時間は、私のような始発電車参加組にご配慮いただきました時間に感謝し、九里神父様から、三位一体のエリザベットが御帰天された時間。とのご説明がありました。出発地の上野毛に集まった、信コースで参加の方々のうち半数以上が顔見知りで安堵したものの、その方々の格好は私のように近所に散歩に行くというような格好ではなく、登山を本格的になさっていらっしゃる方が少なからずいらして少々不安になりました。

その不安は、晴れ男の私を雨男に変えてしまい、九里神父様を先頭に目指すは中継地の喜多見教会だったのですが、トイレ休憩地の岡本民家園に着く頃には本格的な雨になってしまいました。

喜多見教会でのお祈りの後、休憩させていただいた隣接する礼拝会修道院に移動する際に、勝手知ったる？長谷川路加画伯の壁画がある小聖堂でしばしのお祈り。初めての聖堂で祈ると 3 つの願いが叶う、と教えられていますが、残念ながら？私にとって、ここは初めての御聖堂ではありませんでしたが、同会のミカエラ寮などの女性支援事業を知る一人として、そのご成功と益々のご発展を祈願いたしました。

修道院屋上のマリア様の御像を背に、目指す最終目的地へ野川の川沿いに歩いて行ったのですが、東京に、まだ、こんな自然が残っていたとは・・・。新鮮な驚きでした。

道中は、乙女峠祭りのような印象を抱いていたので、サルヴェ　レジナなどを全員で歌いながらの巡礼かな？と思いきや、普段なかなかお話させていただく機会がない方々との個人的な深い交わりになりました。感謝！

目的地、調布カルメル会へ着くと、大勢のシスター方がお出向え下さり、聖堂で望・愛コースで参加された方々と合流し、超満員での御ミサとなりました。ミサ後はシスター方との面会も準備され、楽しい質問などが飛び交い、和やかな雰囲気に包まれました。

最後になりましたが、すばらしい巡礼を企画してくださいましたカルメル霊性センターニュース、スタッフの方々、調布カルメル会の皆様、参加されたカルメルの霊性を生きておられる信徒の方々に感謝申し上げ、翌日、翌々日に筋肉痛にならなかったことも感謝しつつこのような巡礼が末永く継続され、現代的なカルメリットの福者三位一体のエリザベットの列聖を祈りながら私の感想とさせていただきます。　　ヨゼフ　川上尚

巡礼にて思うこと

加藤　和彦

歩いているといろいろな思いが湧き上がってくる。「こんなに長く歩いているのに昼飯代は何処にあったか」とか、「もう、バスに乗ったほうがよい…」とか、「だいたい私はスタッフなのに集合時間に遅れてしまい、非常にきまりが悪い」などである。「ただ歩く」ことが出来ずに、無数の思いが立ち上がっては消えてゆき、立ち上がっては消えてゆく。どれも巡礼の本義とはほとんど関わりがない、たくさんの思い・観念のざわめきである。

「お前たちの名前はなんと言うのか」、「私たちはレギオン（軍団）。大勢だから」（マルコ・５・８～９）　昔、イエズスが（ゲラサの人の内に）出会った「悪魔」は、思い千々乱れており…、その名を「軍団」と言った。私達は折に触れてオートマティクに発動してしまう、何か自分では抑えられない様々な思い・響き、いわば「軍団」を裡（うち）に持ち運んでいるような気もする。大げさであろうか。

この度の巡礼の保護聖人・三位一体のエリザベットは、ただ神の名の上に依りすがることによってのみ、そこへ間断なく自分を放り込むことによってのみ、「軍団」を骨抜きにしてしまった人である。彼女は、神のみが「軍団」と戦うことができることを、そのつらい生活の中で深く味わったに違いない。「主だけが弱さ、あやまち、動転させるすべてのことからあなたを解放してくださるのです」（伊従信子『いのちの泉へ』より）、「かれらを恐れてはならない。あなたたちの神、主が自らあなたたちのために戦ってくださる。」（申・４・２２）

とにかく聖女の取次ぎを願いたい。

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 322（2006 年秋号）　「今日の霊性」

聖書

聖霊の光のもとに　一聖書と教父（3）　…高橋正行

カルメル会の諸聖人

信仰による照らし　一第三講話(第三部)　…フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味（3）
—『霊魂の城』を中心にして　…九里　彰
三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって—（3）最後の日々　…伊従信子
エディット・シュタインの神への道行き（1）
—アヴィラのテレサとの邂逅とその影響　…須沢かおり
愛で生きる（2）　…ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師（14）—神よ、あなたはどこに　…伊従信子

霊性一般

[霊的講話]今、光を生きる　…中川博道
“生きるために死ぬ“ということ　…森　みさ
愛の断章（1）　…奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 323（2006 年冬号）　「今日の霊性」

聖書

聖霊の光のもとに　一聖書と教父（4）　…高橋正行

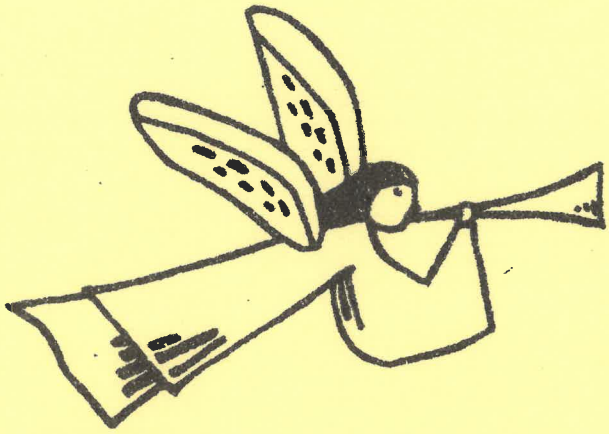
カルメル会の諸聖人

祈り(13)　…チプリアノ・ボンタッキョ
信仰による照らし　一第四講話(第一部)　…フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味（4）
—『霊魂の城』を中心にして　…九里　彰
三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって—（4）光、愛、いのちへ　…伊従信子
エディット・シュタインの神への道行き（2）
—アビラのテレサとの邂逅とその影響　…須沢かおり
愛で生きる（3）　…ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師（15）　—全存在をかけて祈る　…伊従信子

霊性一般

石牟礼道子の作品に見られるキリスト教（3）
・・・『十六夜橋』のコスモロジーと「原罪」　…谷口正子
愛の断章（2）　…奥村一郎

諸所の企画案内



CWC（キリスト者婦人の集い）

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山霊性交流センター

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

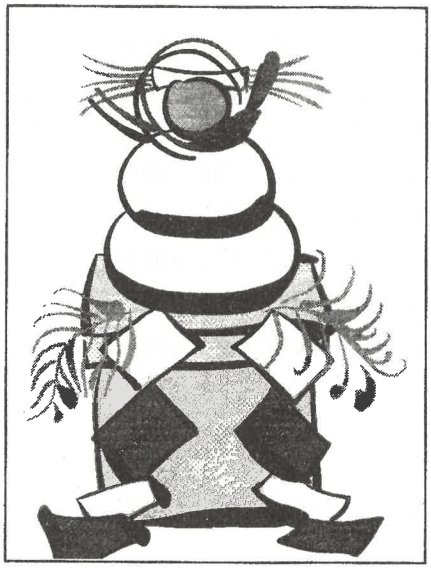
諸所の企画案内

【CWC（キリスト者婦人の集い）講話会】

今年は、**「聖書深読入門」**を行ないます。

講師：九里　彰神父（カルメル会）
日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）
場所：真生会館４階第８会議室　時間：午前１０時３０分～１２時
対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

２００７年
１月　９日（火）
２月１３日（火）
３月１３日（火）
４月１０日（火）
５月　８日（火）
６月１２日（火）
７月１０日（火）



８月９月はお休みいたします。

方法

１．まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
２．その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
３．「素読」で受け取ったものを、一節ごとに皆で分かち合う「合読」。
（無理に発言する必要はなし。何も発言しなくても結構です。）
４．「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解読」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了お願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町３－２７「心のいほり　内観瞑想センター」

藤原神父　FAX　072-802-5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2007年度(予定) ★

K1	07・01・21（日）4時から	01・27（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
B1	07・01・29（月）2時から	02・04（日）2時まで	札幌・厚別・ベネディクト
Y1	07・02・10（土）2時から	02・16（金）2時まで	神戸・須磨ヨハネ
P1	07・02・22（木）2時から	02・28（水）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	07・03・18（日）4時から	03・24（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
M1	07・05・17（木）2時から	05・23（水）2時まで	盛岡・白百合・シャルトル
K3	07・06・03（日）4時から	06・09（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
P2	07・06・17（日）2時から	06・23（土）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
N2	07・06・26（火）2時から	07・02（月）2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
Y2	07・07・22（日）2時から	07・28（土）2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
P2	07・08・10（金）2時から	08・16（木）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	07・09・09（日）4時から	09・15（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
B2	07・10・17（水）2時から	10・23（火）2時まで	札幌・厚別・ベネディクト
N3	07・11・02（金）2時から	11・08（木）2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
K5	07・11・11（日）4時から	11・17（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
P3	07・12・03（月）2時から	12・09（日）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会

一日内観・ミニ内観のご案内

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて　参加費は１万円

2007年　1月　7日(日)午後2時から　8日(月)午後4時まで

2007年10月27日(土)午後2時から28日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖縄・安里修道院・毎月第一水曜日・10時から3時まで

シスターかんな・電話098・866・8293

リーゼンフーバー講座・集いご案内

【入門講座】　毎週金曜日　１８時４５分～２０時３０分
聖イグナチオ教会信徒会館３階

1月12日（金）　霊の動き－福音による生き方
1月19日（金）　聖書と教会－信仰の基盤になる言葉
1月26日（金）　秘跡と教会生活－毎日を養う信仰
2月2日（金）　神の言葉－神との日常的な対話と黙想の仕方
2月9日（金）　結婚と独身－愛の道
2月16日（金）　信徒・司祭・修道者－誰もが召されている
2月23日（金）　仕事という人間の課題－社会に寄与して働く
2月24日（土）　●黙想会
2月25日（日）　●黙想会

【理解講座】　第１・第３・第５ 火曜日　１８時４５分～２０時３０分
聖イグナチオ教会信徒会館３階

1月16日（火）　御子の受肉――神の子と人の子
1月30日（火）　［教会］　弟子の共同体――初代教会の成立
2月6日（火）　教会の課題――信仰と恵みの担い手
2月20日（火）　一致というイエスの望み――キリスト者の間、世界の中で
2月24日（土）　●黙想会
2月25日（日）　●黙想会

【会社帰りの黙想】　毎月第２・第４ 火曜日　１８時４５分～２０時

【祈りの集い】　講話・黙想・ミサ 下記の土曜日　１３時３０分～１６時
1/13、 2/3、 3/10 上智大学内S．J．ハウス第５会議室
【ロザリオの祈り】　同日１６時１５分～１６時５０分
上智大学内クルトゥルハイム１階右側小聖堂

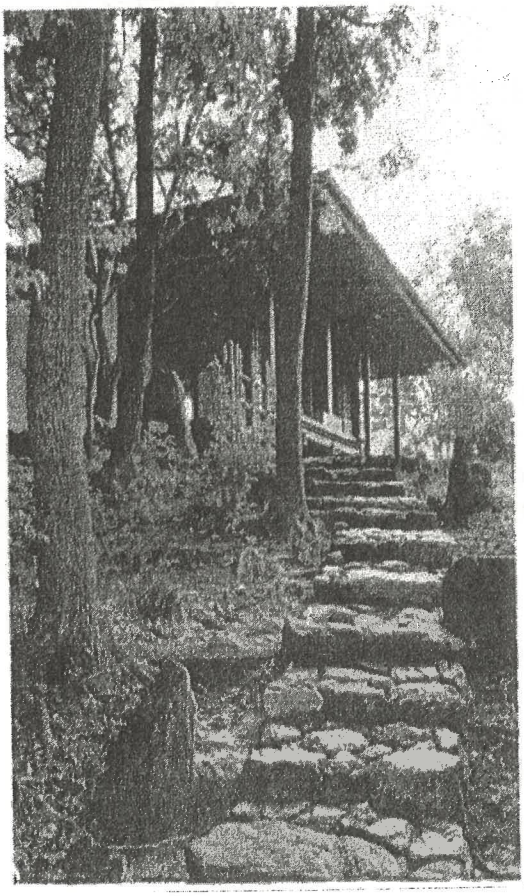
【水曜日のミサ】　ミサ：１７時１０分～１８時、　黙想：１８時～１８時３０分
上智大学内クルトゥルハイム１階右側小聖堂

【黙想会】
2/24（土）１０時～2/25（日）１５時 上石神井　：　要申込み

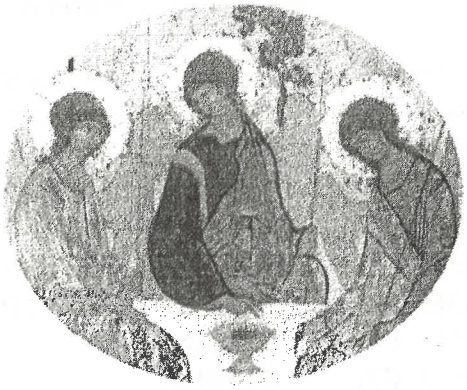
【問い合わせ・ クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部哲学科教授）連絡先】
〒102－8571 千代田区紀尾井町７－１ 上智大学 S．J．ハウス
TEL 03－3238－5124(直通)、5111（伝言）
FAX 03－3238－5056
http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/

真命山

諸宗教対話・霊性交流センター



真命山の霊性

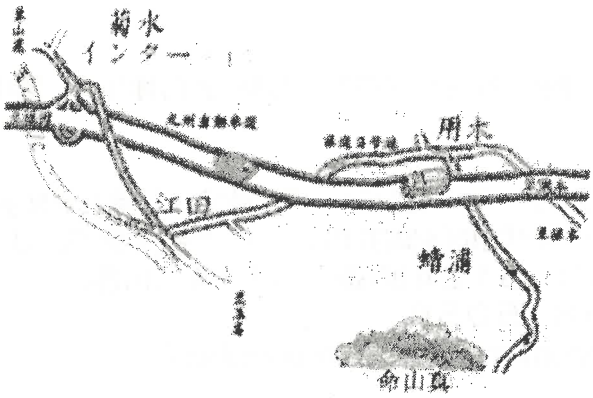


自然　神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで　**祈り**

静けさ　沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かつ　**交わり**



真命山

2007年度行事のご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

1月11日（木）聖ダミアノの十字架のもとで祈った
聖フランチスコ

2月　8日（木）十字架に釘づけられたキリストの体

3月　8日（木）キリストの受難と死

4月 12日（木）　死に勝たれたキリストの姿

5月 10日（木）イエス様の十字架のもとに
立っておられるマリア様

6月 14日（木）十字架につけられたキリストの御顔

7月 12日（木）　〃　（続き）

9月 13日（木）三位一体の栄光を表す十字架

10月11日（木）十字架につけられたキリストを
囲んでいる人々

11月　8日（木）十字架を担ってキリストに従う

12月13日（木）十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父　（院長）

シスター　マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

申し込み先
〒 865-0133
熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

真命山ニュース 2006

待降節を迎え、ようやく紅葉が美しいと感じはじめたばかりなのに、もう落葉しはじめました。地球規模の気候不順の流れのなかで山の四季の移り変わりもやや厳しくなったように思われますが、皆様は、お元気でいらっしゃることと存じます。このレターをもって今年初めて真命山を訪れられた方々、そして昔から変わらぬ友人の皆様にクリスマスのお喜びと新春のお祝いを申し上げます。

真命山での歓待

幸せなことに、今年も一年中多くの方々をお迎えして、初めてこられた方々との出会い、また、再び来られた方々との出会いは私たちの喜びでした。多くの友人の中で特に次の方がたを思い出しています。

6年前に真命山に来られたヒルデガルトさんが、はるばるノルウェーから今年はご主人を伴われて、6 月末に 10 日間私たちと一緒にすごされました。

真命山の初めのころ1年半協力してくださったシスター千草(聖心ウルスラ会)が、長い間イタリアで活動の後、日本に帰国され、修道会の管区長と来られました。

ここで結婚式を挙げ、たびたび真命山を訪れている今村武史・真紀夫妻が、今年生まれたご長男(愛信君)を連れてこられました。

また、初めて訪ねてこられたお客様の中では、特に次の方々をご紹介します。

2 月、イタリアから司祭団とニコラ・コラスオンノ神父が、フランシスコ・ザビエルの生誕500周年を記念してその足跡をたどり日本に巡礼し、真命山に立ち寄られました。

4月、モロッコで宣教師として働いているロベッリ・マッテオ神父が、韓国の友人ステファノ・キムさんと一緒に来られ、3週間ほど私たちと祈りの生活を共にされました。

7月、ローマのグレゴリアン大学の研究者たちが3週間滞在し、シスターマリアの指導のもとで、日本における仏教と、日本における仏教とキリスト教間の対話について研修されました。

8 月、横浜教区の典礼委員会のグループが、真命山の祈り、特に典礼を研修されました。

同じく8月、北九州産業医科大学3回生の学生たちが、フランコ神父の指導のもとで 4 日間の宗教体験を研修されました。

11 月末、長崎の高見三明大司教、京都の大塚喜直司教をはじめとするカトリック司教協議会諸宗教部門の会議が真命山で行われました。

初めて来られた何百人ものお客様の一人ひとりのお名前を思い出す中で、特にお二方、駐日ローマ法王庁大使アルベルト・ポッターリ・デ・カステッロ大司教と同参事官レオン・カレンガ神父がこの 12 月の初めに真命山を訪れ、1 泊してくださったことは望外の光栄でした。

祈りと対話の出会い

フランコ神父が指導する、毎月第2木曜日に行われている「祈りの集い」は続いています。今年のテーマは「三位一体・唯一の神と共に生きる」でした。

私たちが生活している蜻浦村との親しい交流も続いています。春の祭り(2 月 5 日)、秋の祭り(11 月 2 日)、総会などには真命山も参加します。正月は村の方々が初詣に、5 月は村の老人会の方たちが、11 月には菊水南小学校

の子供たちが先生方と遠足に、12 月は子供たちのクリスマス会など、村の方々がいろいろな機会に真命山を訪れています。

今年も、熊本地区諸宗教対話研究会のグループを支え、皆で玉名の生命山シュバイツァー寺(1月9日)、蓮華院誕生時奥之院(3月21日)、熊本の宗岳禅寺(7月17日)を訪ねて宗教間の交流活動を続けています。

真命山の諸宗教者による平和の祈りの後
園田神父と古川龍桃さん

その他、真命山として他のいろいろな宗教と交流・対話を続ける中で、特に生命山シュバイツァー寺とのつながりを大切にしてきました。故古川泰龍先生の後継者龍樹住職が主催する死刑制度反対、西武雄さんの再審請求運動の呼びかけに協力しています。

他の寺院や教会、特に立正佼成会熊本教会、瀬高の天台宗清水寺の鍋島住職、伊万里の真宗西念寺の井手住職、甲佐町の真宗教栄寺の甲斐住職、熊本の曹洞宗宗岳禅寺の堀田住職、菊池の曹洞宗聖護寺との交流や相互訪問が続いています。

10月1日(日)「第7回諸宗教平和の祈りの会」には、真命山に9つの宗教の代表者が集まり、世界の平和を祈り、平和のための道具としてともに働くことを誓いました。

10月1日、真命山本堂、第七回諸宗教平和の祈りの会

その他の諸宗教対話活動への参加

真命山が主催する活動のほかに、しばしば他の組織が主催する諸宗教対話活動にも参加して協力しました。

5 月、フランコ神父は、ローマの教皇庁諸宗教対話評議会を訪問して、教皇庁諸宗教対話評議会事務局長ピエール・ルイジ・チェラータ大司教と同事務局次長フェリックス・マチャド神父に会いました。

8月26日～29日、シスターマリア、フランコ神父は、京都で行われた第8回WCRP(世界宗教者平和会議)に参加しました。園田神父とシスターマリアは3月7日の準備会にも参加しました。

8月29日～31日、フランコ神父は、毎年行われる禅キ懇談会(仏教とキリスト教の懇談会)に参加しました。

9 月4日～5 日、シスターマリアは、アッシジ(イタリア)で行われた聖エジディオ共同体が主催する「諸宗教者平和の祈り世界大会」に参加しました。

9月12日～17日、園田神父とシスターマリアは、タベルネリオ(イタリア)の聖ザベリオ宣教会「宣教センター」で行われた諸宗教対話についての神学者の研究会に参加し、シスターマリアは二つの論文を発表しました。

11月15日、フランコ神父は、立正佼成会熊本教会で行

京都、第八回WCRP世界大会。左からフランコ神父、西アフリカ シエッラ・レオネのビグッジ司教（ザベリオ会）、寺沢僧侶、シスターマリア

われた庭野日敬開祖生誕百周年のお祝いに参加しました。

11月15日～20日、シスターマリアは、ザンボアンガ（フィリピン）で行われたイスラム教とキリスト教間の対話研究会で講演しました。

年に二度行われる「かけ橋」（日本で諸宗教対話をすすめる修道会有志の組織）の定例会が大阪府泉佐野市のザベリオ会本部で行われ、6月と11月、園田神父、シスターマリア、フランコ神父が参加しました。

2月、6月、11月、園田神父、シスターマリア、フランコ神父が、日本司教協議会諸宗教部門会に参加しました。

講演・執筆活動

国内外から、特に諸宗教対話とインカルチュレーションの問題についての講演と記事の執筆をしばしば依頼されました。その中で例えば、

5月、フランコ神父は、ローマのグレゴリアン大学の宗教文化研究所で日本における仏教とキリスト教間の対話について講演しました。

11月、シスターマリアは、マニラ（フィリピン）のロヨラ神学大学で日本特に真命山の諸宗教対話について講演しました。

日本司教協議会諸宗教部門が出版した『諸宗教対話公文書資料と解説』の執筆にあたり、シスターマリア、園田神父、フランコ神父が協力しました。6月9日、出版記念として東京でシンポジウムが開かれました。

バチカン出版局で印刷中の祈りについての事典には、シスターマリアの「日本の伝統にもとづいた祈り　真命山の歩み」という記事が載せられます。

「茶道」についてイタリアのラジオ RAI3ディレクターカラモーレ氏が製作して放送した時のシスターマリアとのインタビュー内容が、近いうちにマリア・デ・ジョルジ著『茶道』（モルチェリアーナ出版）として出版されます。

その他、フランチェスコ・リッツァーニ著『[竜安寺と]第15番目の石』（ローマのアラクネ出版社）が出版されたことを、よろこびをもってご紹介します。二年前にイタリア人フランチェスコ・リッツァーニとラウラ・リッカ夫妻が真命山を訪問されましたが、その本の中でフランチェスコとラウラの日本列島と日本文化の中で生きた心の旅が語られ、ほぼ半分を真命山にさいています。

道を続けて

なお皆さんお一人ずつのお名前を書いてお礼を述べたいのですが、特に感謝の心をこめて一人のお名前をあげることをお許しください。東北の宮城県仙台市にあるウルスラ修道会のシスター東海林博子のことです。13年間、真命山の家族として働いたあと、現在は修道会本部で活動しておられますが、今年もお忙しい中、真命山で2ヶ月間ほど私たちと共に生活し、手伝ってくださいました。

わたしたちは祈りながら教会と共に民族と民族、文化と文化、宗教と宗教の間の対話の道を歩き続けます。

まもなくお祝いするイエス・キリストの降誕祭が、すべての方がたに「夜明けの太陽」（ルカ 1・78）・「すべての人を照らす光」（ヨハネ 1・9）を見る恵みとなりますようにお祈りします。

この道を歩むわたしたちを今年も支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

2006年降誕祭

フランコ・ソットコルノラ神父と真命山共同体

ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院

◎ 所 在 地：〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1

Tel：　077-579-7580

Fax：　077-579-3804

Eメール：　nd-inori@mbr.nifty.com

◎ 交　通：　JR京都駅から湖西線で「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日　程：

A.　8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2006年12月27日（水）～ 2007年1月4日（木）

② 2007年2月20日（火）～ 2月28日（水）

③ 7月23日（月）～ 7月31日（火）

④ 8月18日（土）～ 8月26日（日）

⑤ 9月1日（土）～ 9月9日（日）

B.　週末3日間の個人指導による祈りの体験（神との親しさの中で日常を生きるために）

初日は、17時のミサで始まり、最終日は13時30分のミサで終わります。

⑥ 2007年1月19日（金）～ 21日（日）

⑦ 2月2日（金）～ 4日（日）

⑧ 4月13日（金）～ 15日（日）

⑨ 5月11日（金）～ 13日（日）

C.　3日間の週末個人黙想　（週末に個人黙想をなさりたい方のため）

他の黙想会が行われている場合があります。

⑩ 2007年2月23日（金）～ 2月25日（日）

⑪ 3月2日（金）～ 4日（日）

⑫ 3月23日（金）～ 25日（日）

⑬ 5月18日（金）～ 20日（日）

⑭ 6月29日（金）～ 7月1日（日）

⑮ 9月7日（金）～ 9日（日）

⑯ 10月5日(金)　～ 7日（日）

⑰ 10月12日(金)～ 14日（日）

⑱ 10月19日（金）～ 21日（日）

⑲　　11月　2日（金）～　4日（日）

D.　霊性プログラム：ワークショップ　（自己発見から神へ）

⑳　2007年3月22日(木) ～ 29日(木)

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせてください。

◎　**対　象：**信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎　**担当者：**　トニー・ブロードニャック師（ﾒﾘﾉｰﾙ宣教会）と シスター が
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎　**受　付：**　受付(ﾁｪｯｸ･ｲﾝ)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎　**申込先：**　郵送、または、Fax　でお願いします。

郵送：　〒520-0106　大津市唐崎　1丁目3－1　ノートルダム修道院

Fax：　077-579-3804

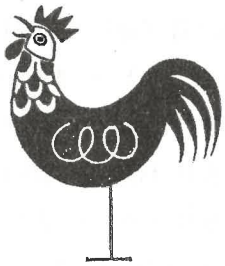
1) 名前　2) 住所　3) 電話番号　4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎　**問い合わせ：**　電 話：　077-579-7580　または、

Ｅメール：　nd-inori@mbr.nifty.com「件名は黙想」でお願いします。



いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。
カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年　1月13日(土)
テーマ：幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師
帰天４０周年にあたって

講話　　伊従信子　・　片山はるひ

午後２時より　講話・祈り・分かち合い
午後５時半　　ミサ（参加自由です）
参加費　　２００円

お申し込み・問い合わせ
ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　jndv-jp@r2.dion.ne.jp
（メールアドレスが変更になりました。）

カルメル会の霊性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

近刊紹介

＊「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

三位一体のエリザベットとともに生きる

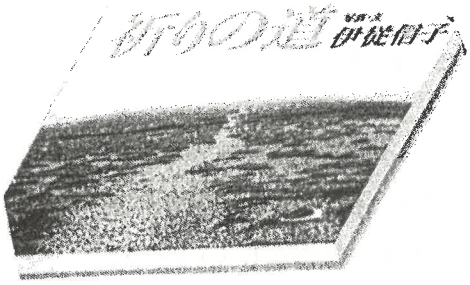
（三位一体のエリザベット帰天１００周年記念出版）

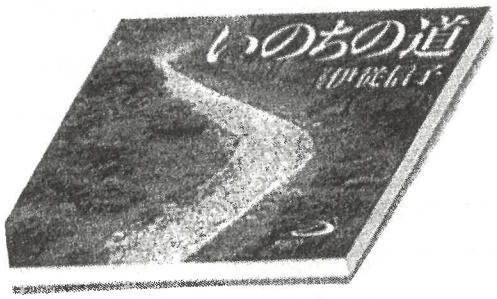
伊従信子著・聖母文庫：聖母の騎士社・￥５２５（１９６頁）

＊　「祈りの道」「いのちの道」

写真と文　伊従信子・サンパウロ・￥８４０（４８頁）

日々の生活に潤いをもたらす、珠玉の言葉と写真を集めた２冊。





帰天100周年記念に贈る、
福者三位一体のエリザベトの生涯！

三位一体のエリザベト

神は私のうちに　私は神のうちに

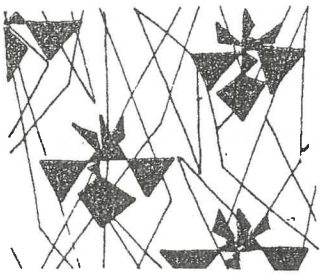
Sr.菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベトの霊性の美しさを記す。
「神秘中の神秘である三位一体に引き込まれていく」一修道女の生涯。

菊地多嘉子著　64頁　新書判　定価（本体500円＋税）
ドン・ボスコ社

菊地多嘉子　著

ドン・ボスコ社

10冊以上２０％割引！



投稿募集

テーマ：「*キリスト教との最初の出会い*」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリス教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で２枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われます。

＊　寄稿連絡は、九里（くのり）　彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093　世田谷区上野毛2-14-25　カルメル会修道院

Tel(03)3704-2171　Fax(03)3704-1764

投稿規程

＊　締め切り：原則的に**毎月１０日まで**

＊　原稿サイズ：**B5**　　左右の余白：**２０mm**

＊　原稿はできる限り**ワープロかパソコンで**おねがいします。

手書きの場合は、パソコンで打ち直しのため掲載が遅れる場合も出てきます。

＊　E-mailでの投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。

＊　「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。

＊　「諸所の企画」のコーナーについては、

①主催するグループ名もしくは個人名を明記。

②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。

③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。

佐々木茂子　〒230-0074　横浜市鶴見区北寺尾4-21-11

Tel (045) 575-5722

献金へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：００１１０－４－２９７２５０
加入者名：カルメル霊性センターニュース
通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。
振込用紙が必要な方は、ご請求下さい。お送りいたします。

編集後記

三階にある私の修室の窓からの眺めは、いつの間にか冬景色となった。前の家のけやきの木は、すっかり葉を落とし、その枝の間からは玉川の水面(みなも)が見えるようになった。はるか遠く丹沢山塊の背後には、夏の間は雲のためにまったく見えなかった富士山が白い雪をまとい、秀麗な姿を現している。

富士山が美しいのはなぜだろうか。その姿が均整の取れた形をしているからか。その大きさ、高さか。周りに並び立つ山がないからか。それにしても、私たちはその圧倒的な姿の前に手を合わせずにはおられない。何か気高いものを感ぜずにはいられない。単なる見てくれではなく、そこに清らかさ、純粋さを見るのである。以前、巻頭言にも紹介した徳重敏寛さんの詩にこういうのがある。

山神様

山には
神様が居ると考えなければ
山の謎は解けない
手を合わせて拝みながら
ふとそんなことを思った

ちなみに「一富士、二鷹、三なすび」。初夢でこれらのものを見ると今年は縁起がよいということだそうであるが、何でも駿河でなすびが高騰した時の家康の言葉だとか。二鷹の鷹は、鳥の鷹ではなく愛鷹山のこと。要するに、なすびの代わりに、トマトでもかぼちゃでもいいわけである。

キリスト教版では、こんなのはどうか。「一キリ、二父、三聖霊」。

(P.九里)

DECOR
REGINA
CARMELI